

1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取組みをお知らせします。

緊急時演習を実施（2月2日）

原子力災害が発生した際に、防災組織が有効に機能し、事故収束対応が適切にできることを確認するため、当発電所約260名、本社約190名の対応要員が参加した総合防災訓練を実施しました。



指示を出す本部長（発電所長）

発電所
対策本部



本社
対策本部



訓練は、「震度6強の地震が発生し、燃料を冷やす電源の喪失や構内における火災発生など」の複合災害を想定し、参加者にはあらかじめ内容を伝えずに行われました。

発電所対策本部では、各設備の状況確認、復旧戦略の立案、関係機関への通報を実施し、現場では、電源確保や負傷者救護、環境放射線モニタリングなどの実働訓練を行いました。

電源確保訓練



使用済燃料プールに注水する設備等へ電源を供給するため、電源車を構内高台から原子炉建屋そばへ移動し、電力ケーブルの引出し・接続などを行いました。

救急対応訓練



身体に放射性物質が付着した負傷者を処置室まで移送し応急処置を行う手順や、体表面の汚染（放射線量）を測る手順の確認を行いました。

今後もさまざまな状況を想定した訓練を繰り返し行い、災害対応力の強化を図っていきます。

みなさまのご質問におこたえします

Q. 発電所で作業をしたあと、体や物品に放射性物質が付いたまま外へ出てしまうことはないの？



A. 発電所の建物内で放射線管理が必要なエリアは、『放射線管理区域』として設定しています。

放射線管理区域から人が出る際や、作業で使った機材・工具などを区域外に持ち出す際は、体や物品に放射性物質の付着がないことを検査・確認しています。



回答：放射線・化学管理G 中村 淳美
(浪江町出身)

《 放射性物質を外へ持ち出さないためのしくみ 》



放射線管理区域内では保護衣等で体表面への放射性物質の付着を防いでいます。

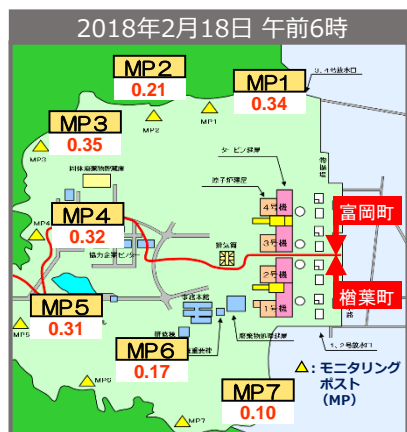


体 や被服の表面を検査



物 品の表面を検査

発電所周辺の空間線量率



単位は、マイクロシーベルト毎時

参考データ

原子力規制委員会
放射線モニタリング情報より
(2018年2月18日午前6時)

富岡町
文化交流センター
(富岡町役場敷地内)
0.178
マイクロシーベルト毎時

楢葉町
楢葉町役場
0.081
マイクロシーベルト毎時

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1～4号機の使用済燃料プールで保管しています。プール水の温度は**約30℃**で管理し、常に監視しています。
- プールの冷却が停止した場合、プール構造体（鉄筋コンクリート）の強度を保つために設定した温度（65℃）に達するまで**約7日**と評価しており、その間に設備の復旧や対策がとれるよう備えています。

	1号機	2号機	3号機	4号機
燃料の保管数	2,534体	2,482体	2,544体	2,516体

発電所データBOX

福島第二原子力発電所で働く人は2,576人*です。(2018年1月1日現在)

	東京電力HD	協力企業	合計
県内	397人	1,805人	2,202人 (85%)
県外	49人	325人	374人 (15%)
合計	446人	2,130人	2,576人 (100%)

* 1日当たりの入構者数は約1,200～1,300人

■編集後記

広野小学校の校舎に映像を投影するプロジェクションマッピングショーに家族と行ってきました。音楽に合わせて真っ暗な校舎に浮かび上がる桜の花。小学生の顔写真が映し出されると歓声があがり、会場全体が温かな雰囲気になりました。私もいつの間にか童心に戻り、心を弾ませていました。

【和】



校舎一面に映し出された桜 (1月31日)

福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

ご質問・ご不明な点がございましたら、こちらまでお問合せ下さい。